



ほうさ 第20号

1984年9月

名古屋市蓬左文庫

Nagoyashi Hôsabunko

屢示屋 よ り

東洋の古活字本展

I. 朝鮮の古活字本

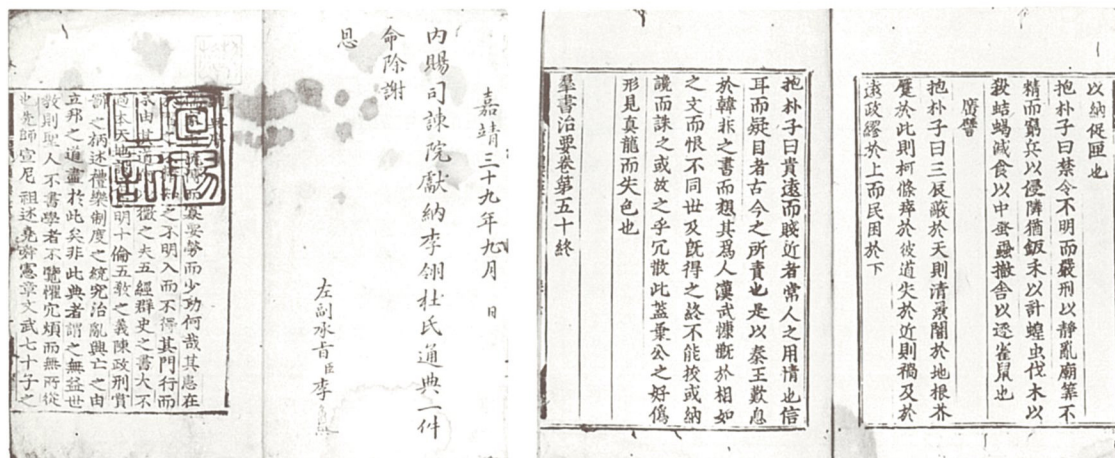
9. 16(土)~10. 17(日)

II. 日本の古活字本

10. 20(土)~11. 18(日)

ドイツのグーテンベルグが、ルネッサンスの三大発明の一つ、活字印刷術の発明に成功したのは、15世紀も半ばのことです。しかし東洋では、すでに11世紀に、中国宋代の畢昇が活字印刷を行なった記録が残されています（沈括「夢溪筆談」）。また、1298年には、元の王楙による木活字印刷の記録もありますが、中国では、木版（整版）印刷の方が普及し、活字版はあまり用いられず、金属活字（銅を主とする）の発明については、隣の朝鮮（高麗）に、その地位を譲ることになります。中国で、金属活字の使用が盛んになるのは、明朝の15世紀以降のことです。

中国から活字印刷術を輸入した朝鮮では、1232年に李奎報により金属活字印刷が行われた記録があり、バリの国立図書館には、1377年の刊記のある高麗版の「直指心経」が所蔵されています。そして、朝鮮において本格的に活字印刷が盛んとなるのは、高麗にかわった李朝によって1403年、王立鑄字所が創設されて以降のことです。ここで最初に鑄造された活字は、1403年の干支をとって「癸未字」と呼ばれ、これ以後鑄造された活字にもその年の干支が名称として与えられました。この鑄字事業は、李朝 460年の間に主なものだけでも20回に及ぶといえます。これらの中で、1434年に鑄造された「甲寅字」は、晋代の秀書家衛夫人の字に似ていることから「衛夫人字」とも呼ばれ、字体の整っていることで「朝鮮万世の宝」とさえいわれています。この字は



通典

群書治要

癸未字、庚子字が甲寅字の鑄造後廃棄されたのに対して、その後も長く使用され、1573年に「改鑄甲寅字。が新鑄されるまで、「乙亥字」、「甲辰字」とともに併用されました。

金属活字を使って印刷された書物の中には、「鑄字跋」と呼ばれる跋（編著の次第などを巻末に附記する文章）を持っているものがあり、朝鮮における活字鑄造の歴史及び経緯、鑄造を命じた王の事跡などが記されています。また、現在蓬左文庫が所蔵する朝鮮本の中には王室から臣下に下賜された内賜本（宣賜本）も多く、臣下の身分、名前、年月日等が見返しに記され、巻頭に大型の朱印「宣賜之記」が捺されています。朝鮮における特異な活字印刷術の発達、李朝の宮廷文化の一つでもありました。

一方、我が国に初めて活字印刷が伝えられたのは、1590年、イタリアの宣教師による西洋の活字印刷術で、隣の中国や朝鮮からのものではありませんでした。これはキリシタン版と呼ばれ、主として九州の一部で行なわれただけで、中央の出版文化には、ほとんど影響を与えませんでした。その後、まもなく、朝鮮のすぐれた活字印刷術が、文禄・慶長の役（1592～1598）によって、活字本や金属活字とともに伝えられ、日本の出版文化に多大な影響を及ぼすことになります。

まず、文禄2年(1593)、後陽成天皇は、献上された朝鮮の活字を使って「古文孝経」を印刷させ（記録のみで現物は伝わっていない）、以下、慶長2年(1597)から8年まで数種の活字版を刊行しています（慶長勅版）。ついで、徳川家康は、慶長4年(1599)、伏見において、木活字による「孔子家語」や「貞観政要」等を出版し（伏見版）、駿府退隠後の慶長19年、日本で初めて銅活字を鑄造して「大蔵一覽集」と「群書治要」を刊行しました（駿河版）。また、秀頼も慶長11年に「帝鑑図説」を出版しています（秀頼版）。このような為政者による出版と同時に、寺院による活字版の出版も盛んで、慶長5年の要法寺の円智による「倭漢合運図」（要法寺版）を最初に、北野経王寺の宗存による宗存版、叡山版、宝樹院版など、多くの寺院が、活字版の出版に携わっ

16世紀までに鑄造された朝鮮古活字一覧

（「ブレ・グーテンベルグ時代」より）

鑄造年代(李朝)	活字名	活字主材料	活字寸法(cm)
太宗3 (1403)	癸未字	銅	大 1.4×1.7 小 1.1×0.8
世宗2 (1420)	庚子字	〃	大 1.1×1.3 小 1.1×0.6
〃 16 (1434)	甲寅字(衛夫人字)	〃	大 1.4×1.6 小 1.4×0.8
〃 28 (1446)	丙辰字	鉛	2.3×3.4
〃 28 (1446)	甲寅字(ハングル字)	木	大 1.4×1.8 小 1.4×0.9
〃 32 (1450)	庚午字	銅	大 1.4×1.6 小 1.4×0.8
文宗2 (1452)	壬申字	〃	
端宗3 (1455)	乙亥字	〃	大 1.8×2.3 中 1.2×1.5 小 1.2×1.1
世祖2 (1457)	丁酉字	〃	1.9×2.0
〃 10 (1465)	乙酉字(ハングル字)	〃	大 1.5×2.1 中 1.0×1.0 小 1.0×0.6
成宗2 (1471)	辛卯字	〃	(小は庚子字)
〃 15 (1484)	甲辰字	〃	大 1.0×1.1 小 1.0×0.5
〃 24 (1493)	癸丑字	〃	大 1.6×2.1 小 1.0×1.0
中宗11 (1516)	丙子字	銅	大 1.1×1.4 小 1.1×0.7
〃 14 (1519)	己卯字(黄銅字)	黄銅(真鍮)	大 1.1×1.4 小 1.1×0.7
宣祖7 (1573)	癸酉字(再鑄甲寅)	鉄	大 1.4×1.6 小 1.4×0.8
〃 14 (1580)	庚辰字	〃	1.4×1.4

ています。活字印刷の伝来によって、印刷の簡便化が計られ、文禄から寛永に至る約50年間（さらに正保・慶安年間までを含んでこの時期の活字版を古活字版と呼ぶ）には、嵯峨本（本阿弥光悦等が慶長年間に出版した装丁様式の美しい活字本）に代表される仮名交り本など、中世までの仏書中心の出版とは異なり、多種多様な書物が出版されています。この時期に、日本の出版文化は大きく発展し、学術文化の進歩に大きく貢献しました。しかし、図書の需要の増大とともに、版の保存が困難な活字版は衰退し、何度でも増刷の可能な木版印刷が、その後の出版の主流を占めることになります。

蓬左文庫は、尾張藩初代藩主義直が家康から譲り受けた約 3,000冊の駿河御譲本を中心に創設した藩の御文庫をその前身としています。

そのため当文庫にも、徳川家康に献上された朝鮮古活字版が多く所蔵されています（52部約1000冊）。また日本の古活字版についても、蔵書の収集が盛んに行われた時期と古活字版隆盛の時期が重なるため、家康自身の出版物をはじめ、漢籍、国書ともに多種類の活字版を所蔵しています。このように古活字版のコレクションは、当文庫の蔵書の特徴づける重要な要素の一つといえるでしょう。

参考文献

川瀬一馬 古活字版の研究、安田文庫、1937

〃 日本書誌学用語辞典、雄松堂出版、1982

鈴木敏夫 ブレ・グーテンベルグ時代、朝日新聞社、1976

T・F・カーター 東洋文庫版中国の印刷術2、平凡社 1977

I. 朝鮮の古活字本出品目録 (☆印を付したものは駿河御讀本)

- ☆1. 選詩演義 宋・会原一撰
世宗16、宣德9年(1434)刊
庚子字(1420年改鑄) 2巻2冊
- ☆2. 大学衍義 宋・真德秀撰
世宗16、宣德9年(1434)刊
甲寅字 43巻13冊
- ☆3. 選詩 元・劉履補注
明宗8、嘉靖32年(1552)刊
甲寅字、8巻統編5巻補遺2巻10冊
- ☆4. 北史 唐・李延寿撰
成宗6、成化11年(1475)頃刊
甲寅字 100巻51冊
- 5. 鼓吹統編 明・朱紹、朱積共編 樓宏增校
成宗14、成化19年(1483)刊
甲寅字(小字) 10巻2冊
- ☆6. 南軒先生文集 宋・張栻撰
宣祖7、万曆2年(1574)刊
甲寅字 44巻13冊
- ☆7. 梅月堂集 朝鮮・金時習撰
宣祖16、万曆11年(1583)刊
甲寅字 23巻9冊
- ☆8. 箋註靖節先生集 晉・陶潛撰 宋・李公煥箋注
宣祖16、万曆11年(1583)刊
甲寅字 10巻附1巻2冊
- ☆9. 東文選 朝鮮・徐居正等編
甲寅字 130巻目錄3巻64冊
- ☆10. 統東文選 朝鮮・申用溉等編
甲寅字 21巻10冊
- ☆11. 治平要覽 朝鮮・鄭麟趾等撰
中宗11、正德11年(1516)刊
甲辰字(1515年改鑄) 150巻(欠21巻)129冊
- ☆12. 聖訓演 明・許讚撰
中宗32、嘉靖16年(1537)刊
甲辰字 3巻1冊
- ☆13. 桂州奏議 明・夏言撰
明宗4、嘉靖28年(1549)頃刊
甲辰字 21巻16冊
- ☆14. 文章弁體 明・吳訥編
明宗10、嘉靖34年(1555)刊
甲辰字 50巻外集5巻22冊
- ☆15. 文章正宗 宋・真德秀撰
明宗11、嘉靖35年(1556)刊
甲辰字 24巻22冊
- ☆16. 四書輯釋図通義大成 元・倪士毅輯釈 趙沄訂
王逢通義
宣祖3、隆慶4年(1570)刊
甲辰字 42巻23冊
- ☆17. 東萊先生十七史詳節 宋・呂祖謙編
甲辰字 267巻60冊
- ☆18. 私淑齋集 朝鮮・姜希孟撰 徐居正編
甲辰字 17巻4冊
- ☆19. 少保于公奏議 明・于謙撰
中宗16、正德15年(1520)刊
乙亥字 10巻2冊
- ☆20. 朱子大全文集 宋・朱熹撰
中宗38、嘉靖22年(1543)刊
乙亥字
100巻統集11巻目錄2巻 95冊
- ☆21. 御製文集 明・太祖撰
明宗元、嘉靖25年(1546)刊
乙亥字 20巻6冊
- ☆22. 読杜詩愚得 明・單復撰
明宗4、嘉靖28年(1549)刊
乙亥字 18巻16冊
- 23. 異端弁正 明・詹陵撰
明宗6、嘉靖30年(1551)刊
乙亥字 3巻3冊
- ☆24. 天原發微 宋・鮑雲竜撰 元・方回校正
明・鮑寧弁正
明宗8、嘉靖32年(1553)刊
乙亥字 5巻巻首3巻10冊
- ☆25. 通典 唐・杜佑撰
明宗15、嘉靖39年(1560)刊
乙亥字 200巻75冊
- ☆26. 唐太宗李衛公問對直解 明・劉寅撰
嘉靖年間(1522~66)刊
乙亥字 2巻2冊
- ☆27. 内訓 朝鮮・昭恵王后(韓氏)撰
乙亥字 3巻4冊
- ☆28. 範圍総括 元・賈景顥撰
甲寅字、乙亥字 1巻1冊
- 29. 楚辭集註 宋・朱熹撰
[17世紀]乙亥字 8巻後語6巻4冊
[乙亥字] 2巻2冊
- ☆30. 選文掇英 朝鮮・曹伸撰
[乙亥字] 2巻2冊
- ☆31. 謏聞瑣録 明・東陽等奉勅撰
明宗7、嘉靖31年(1552)刊
[癸丑字] 180巻35冊
- ☆32. 崇古文訣 宋・樓昉編
中宗30、嘉靖14年(1535)刊 35巻10冊
- ☆33. 資治通鑑綱目 宋・朱熹撰
朝鮮・李季旬等訓義
世宗20、正統3年(1438)序
59巻序目1巻150冊
- ☆34. 経国大典 朝鮮・崔恒等撰
明・成化年間(1465~87)刊 2巻1冊
- ☆35. 国朝五礼儀 朝鮮・姜希孟等撰
明宗7、嘉靖25年(1552)刊 13巻8冊
- ☆36. 古論選 木活字本 1巻1冊
- ☆37. 菊磻集 朝鮮・尹鉉撰 尹安性編
宣祖24、万曆19年(1591)刊
木活字本 3巻1冊
- ☆38. 陳思王集 魏・曹植撰
明・李廷相編 8巻2冊
- 40. 四書知新日録 明・鄭維岳撰
明・潭城書林余彰德刊 6巻10冊
- 41. 異物彙苑 明・閣文振撰
嘉靖15年(1536)明・蘭莊閣氏刊 18巻6冊
- ☆42. 東文粹 朝鮮・金宗直編
整版(古活字版複製) 10巻2冊
- 43. 夢溪筆譚 宋・沈括撰 26巻5冊
稗海第4套所収
[稗海 明・商維濬編
万曆年中(1573~1619)会稽商氏
半塾堂刊 10套426巻99冊]

○朝鮮本についての、刊行年、活字の種類については、「蓬左文庫朝鮮本展観目録」(朝鮮学会編、昭和32年刊)によった。

II. 日本の古活字本出品目録

〈国書〉

- ☆1. 沙石集 枳 無住
慶長10年刊 (要法寺版) 10巻8冊
2. 太平記鈔 附・音義
〔慶長15年刊〕 40巻意義2巻10冊
3. 倭漢皇統編年合運図
枳 円智編
慶長16年刊 (要法寺版) 2巻2冊
4. 同 同
同 (慶長17至寛永18年補写) 2巻2冊
5. 明德記 慶長10年刊 3巻3冊
- ☆6. 源平盛衰記 慶長年間刊 48巻24冊
- ☆7. 方丈記 鴨 長明
慶長年間刊 1冊
8. 四河入海 枳 清三 (笑雲)
慶長年間刊 25巻100冊
9. 后言抄 林 忠 (道春)
元和年間刊 2巻2冊
10. 倭名類聚鈔 源 順
元和年間刊 20巻10冊
11. 伊勢物語 江戸初期刊 2冊
12. 保元物語 江戸初期刊 3巻2冊
13. 平治物語 江戸初期刊 3巻3冊
14. 御行幸之次第
烏丸光広
江戸初期刊 3軸
15. 源流臨江抄 里村紹巴
寛永年間刊 整版 (古活字版覆刻) 20冊

〈漢籍〉

16. 周易 魏・王弼、晋・韓康伯注
慶長10年刊 10巻5冊
- ☆17. 帝鑑図説 明・張居正、呂調陽同撰
慶長11年刊 (秀頼版) 前1巻後1巻6冊
- ☆18. 尚書 慶長年間刊 13巻1冊
- ☆19. 同 漢・孔安国伝
江戸初期刊 13巻2冊
20. 礼記 漢・鄭玄注
慶長年間刊 20巻10冊
21. 韻鏡 慶長年間刊 1巻1冊
- ☆22. 古今韻会挙要
元・黄公紹撰、能忠挙要
慶長年間刊 30巻15冊

23. 史記 漢・司馬遷撰
慶長年間刊 (伝嵯峨本) 130巻49冊
24. 歴代君臣図像 明・周進隆編
慶長年間刊 2巻2冊
25. 同 同
中宗21、嘉靖5年 (1526) 刊
整版 (陰刻) 2巻2冊
26. 孔子通紀 明・潘府撰
慶長年間刊 (銅活字) 8巻4冊
27. 群書治要 唐・魏徵等撰
元和2年刊 (駿河版) 50巻47冊
28. 白氏文集 唐・白居易撰
元和4年那波道円刊 71巻18冊
29. 施氏七書講義 金・施子美撰
慶長・元和年間刊 42巻20冊
30. 祥刑要覧 明・吳訥撰
寛永元年田中長左衛門刊 1巻1冊
31. 前漢書 漢・班固撰 唐・顔師古注
寛永5年刊 120巻51冊
32. 象山先生全集 宋・陸九淵撰
江戸初期刊 36巻10冊
33. 棠陰比事 宋・桂万榮撰 田沢校
江戸初期刊 3巻1冊

〈仏書〉

34. 元亨釈書 枳 師鍊 (虎関)
慶長10年下村生蔵刊 30巻10冊
35. 大蔵目録 慶長18年刊 (宗存版) 3巻3冊
- ☆36. 大唐西域求法高僧伝 唐・釈義浄撰
慶長19年刊 (宗存版) 2巻2冊
- ☆37. 無量寿経鈔 枳了慧
慶長19年刊 7巻7冊
- ☆38. 大蔵一覧表 明・陳実撰
慶長20年刊 (駿河版) 10巻序目1巻11冊
- ☆39. 高僧法顕伝 東晋・釈法顕撰
元和2年刊 (宗存版) 1巻1冊
- ☆40. 仏説無量寿経 曹魏・康僧鑑訳
慶長・元和年間刊 (宗存版) 残1巻1冊

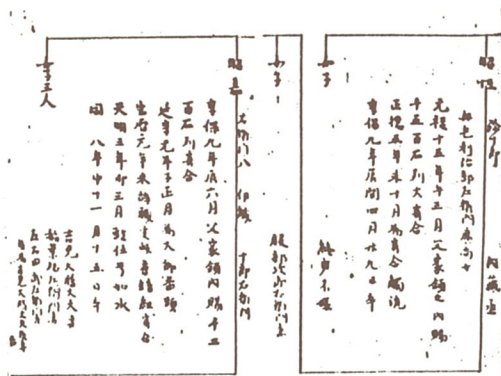
〈江戸時代後期の活字本〉

41. 春秋左伝集解 晋・杜預撰
寛政7年尾張藩明倫堂刊 30巻15冊
42. 出定笑語 平田篤胤
嘉永2年刊 4巻4冊
43. 草茅危言 中井積善
江戸末期刊 5冊

「藩士名寄」(稿本)

尾張藩士の家系・略歴を調べる場合、「士林派洵」と相俟って最も基本的史料とされるのが「藩士名寄」である。当文庫のものは「稿本」といわれ、缺けた部分もあるが、140冊(藩士133冊、職人4冊、神主1冊、寺院1冊、女中1冊)が現存している。袋綴の大型本で、1冊の収録姓数は、1姓から38姓に及び、丁数も63丁～325丁と、相当開きがある。堅刷毛目の厚手表紙には、中央の題簽に「稿本藩士名寄」とあり、いろは順の通し番号、更に「いの一」「いの五家譜」などと書き添えられる。廃藩後放置されていたものに、補修と丁付を加え、現在の体裁に整えたものであるが、間々錯簡があり、一部は綴直されてもいる。最近、マイクロ撮影による紙焼本が揃い、自由に閲覧して頂けるようになった。内容から見て、次の3種類に大別される。

- ①各家から提出した家譜をそのまま綴じたもの。おおむね美濃判であるが、多少、大小の差も交っている。各家の最後に寛政7～9年、文化8・9年の提出時期を記す。系譜を主とし、個人の略歴を添えた「士林派洵」型式を基本とするが、必ずしも一定せず、筆跡もまちまちである。諱・通称ともに記載される。(37冊)
- ②各家から提出したものをもとに作成したとみられ、美濃紙半丁に8行を基本として、整った御家流で書かれている。最終記事は天保2・3年であるが、年代別に筆跡が変わるので、次々に書き加えたと考えられる。系譜はなく、個人単位に列記するが、姓名(通称)に添えて「——惣領」「——養子、実ハ——男」など、変化の過程も記され、先祖をたどることも出来る。記事は比較的詳しいが、「士林派洵」とちがって、諱の記載を缺くのが不便といえる。(74冊、他に①と②の交ったもの4冊)



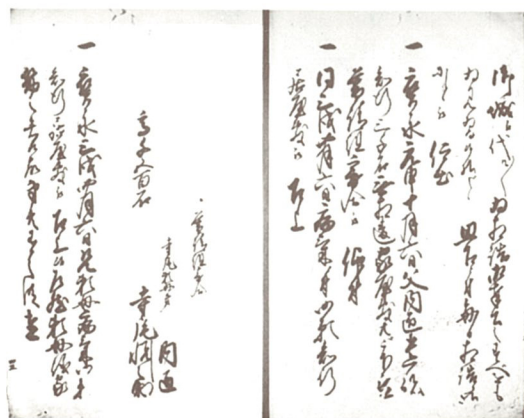
「藩士名寄」①

- ③様式は②と同じであるが、美濃紙半丁に15～19行程書き込まれている。虫損がひどく、全面的に裏打は施してあるものの、判読不能の箇所も多い。宝暦・明和以降に仕官、或いは相続した藩士を収録し、最終記事は明治4年に及ぶ。缺けた部分が相当みられるが江戸中期で終る「士林派洵」の後を補うものとして最適といえる。(25冊)

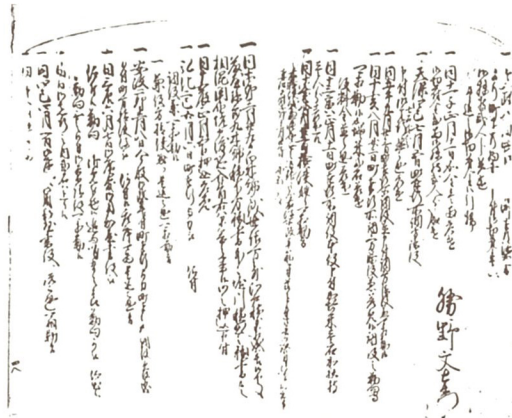
総収録姓数 827姓の内、3種類すべてに記載のあるのは約30姓に過ぎず、いずれか1種のみの家も少なくない。

なお、茶色表紙に、「名古屋藩士家譜いー(二・三)(藩士名寄いノ一部)」と打付書のある3冊本を所蔵する。

①と同系統で12姓が収められている。(蟹江)



「藩士名寄」②



「藩士名寄」③

出版物一覽

名古屋市蓬左文庫漢籍分類目録(S.50年刊)	3,500円	名古屋叢書三編第12巻(S.56年刊)	3,000円
名古屋市蓬左文庫国書分類目録(S.51年刊)	4,000円	同 第8巻(S.57年刊)	3,000円
名古屋市蓬左文庫古文書古絵図目録(同)	2,500円	同 第16巻(同)	3,000円
尾崎久弥コレクション目録第一～三集		同 第19巻(同)	3,000円
(S.52～55年刊)	各 1,500円	同 第17巻	
名古屋叢書(正編)索引・総目録(S.53年刊)	2,000円	—横井也有全集 中—(S.58年刊)	3,000円
名古屋叢書続編 索引(S.47年刊)	700円	同 第4巻	
名古屋叢書続編総目録(S.44年刊)	400円	—士林浜廻続編—(S.59年刊)	3,000円
善本解題図録第一～三集(S.55年再版)	各 300円	同 9巻	
日本の古典<蓬左文庫図録>(S.52年刊)	200円	—松濤棹筆(抄)上(近刊)	3,000円
蓬左文庫・源氏物語図録(S.53年刊)	300円	堀田文庫蔵書目録(S.58年刊)	500円
蓬左文庫所蔵古地図複製(S.55～57年刊)		蓬左文庫図録(同)	1,500円
No.1～No.11	各 1,800円	蓬左文庫絵葉書<8枚組>(同)	300円
		御本印型書鎮(同)	1,000円

★以上の出版物は、本文庫事務室において頒布しています。郵送希望の方は郵送料が必要ですので、お問い合わせ下さい。(ただし、古地図複製は郵送不可)

利用ご案内

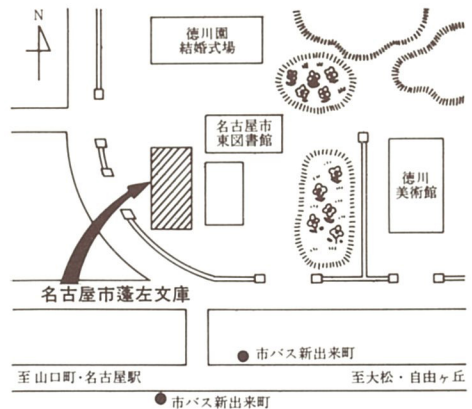
- ▷開館時間 午前9時30分～午後5時
- ▷休館日 毎月曜日・第3金曜日(館内整理日)
祝日(日曜に重なる場合は日曜開館、月・火休館)
月曜 〃 月・火休館
年末年始(12月28日～1月4日)
- ▷閲覧 館内に限り、館外貸し出しはいたしません
(閲覧料) 普通図書 無料
重要図書 有料(1部350円)
- ▷展示 随時蔵書の一部を展示
(特別展を除き入場無料)
- ▷複写サービス 普通図書のうち、保存上影響のないものについて複写サービスを行います。その他、マイクロフィルムの利用、写真撮影の申請を受け付けますので、ご来庫の上、ご相談下さい。

名古屋市蓬左文庫

〒461 名古屋市東区徳川町1001番地

☎(052)935-2173

(市バス 新出来町 北 100m)
山口町 東 500m)



「蓬左」第19号 ☆昭和59年9月16日発行 ☆編集・発行：名古屋市蓬左文庫(東区徳川町1001番地)

☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷：大同印刷株式会社(東区泉2-3-18)